



vRealize Operations Manager 8.0.1 リリース ノート

VMware vRealize Operations Manager 8.0.1 | 2019 年 | ビルド 15331180

VMware vRealize Operations Manager Upgrade Pack 6.6.1、6.7、および 7.x から 8.0.1 へ | 2019 年 | ビルド 15331198

注：このアップグレード .pak ファイルには、SUSE から Photon への OS アップグレード ファイルと vApp アップグレード ファイルが含まれています。

VMware vRealize Operations Manager Upgrade Pack 8.x から 8.0.1 へ | 2019 年 | ビルド 15331178

注：このアップグレード .pak ファイルには、Photon OS ベース vApp の vApp アップグレード ファイルが含まれています。Photon OS に対する Photon の .pak ファイルは 8.0.1 用にリリースされません。

VMware vRealize Operations Manager 8.0 Endpoint Operations Agents | 2019 年 | ビルド 14827011

VMware vRealize Operations Manager 8.0 Endpoint Operations Agents PAK Updates | 2019 年 | ビルド 14827024

VMware vRealize Operations Manager 8.0.1 Pre-Upgrade Assessment Tool | 2019 年 | ビルド 15282762

VMware vRealize Application Remote Collector 8.0.1 | 2019 年 | ビルド 15214071

本リリース ノートに対する追加情報およびアップデート情報を適宜確認してください。

リリース ノートの概要

このリリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [新機能](#)
- [システム要件](#)
- [vRealize Operations Manager のインストールとアップデート](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

新機能

New セキュリティ アドバイザリへの対応パッチ

vRealize Operations Manager 7.5 で導入された vRealize Application Remote Collector は Salt を使用するため、認証バイパスおよびディレクトリ トラバーサル脆弱性の影響を受けます。共通脆弱性識別子プロジェクト (cve.mitre.org) では、これらの問題に対して、[CVE-2020-11651](#) (認証バイパス) と [CVE-2020-11652](#) (ディレクトリ トラバーサル) の識別番号が割り当てられています。詳細については、[VMSA-2020-0009](#) を参照してください。この問題を解決するには、[KB 79031](#) に記載されている公開パッチをインストールしてください。

これは、パフォーマンスと安定性に関連する問題が修正された、vRealize Operations Manager のメンテナンス リリースです。さらに、製品のアップグレード中に環境で発生する可能性のある、特殊な状況での問題も修正されました。修正された問題のリストについては、「[解決した問題](#)」セクションを参照してください。

システム要件

vRealize Operations Manager のインストールやアップデートを実行する前に、このセクションをお読みください。

サイジングおよびスケーリング

環境の需要を満たす CPU、メモリ、ディスク要件は、お使いの環境および収集されたデータ内のオブジェクト数とタイプによって異なります。たとえば、搭載されているアダプタの数とタイプ、高可用性 (HA) および継続的な可用性 (CA) の適用、データの保持期間、任意の時点でのデータ量などで左右されます。[ナレッジベースの記事 KB 2093783](#) のサイジングとスケーリングに関する情報が最新の内容に更新されています。このナレッジベースの記事には、全体的な上限、ならびにオブジェクトの数および監視対象とするメトリックに基づいて推奨値を提示するスプレッドシート計算が含まれます。

導入形式

vRealize Operations Manager 8.0.1 は、VMware 仮想アプライアンスと一緒に導入できます。

vRealize Operations Manager 仮想アプライアンスを展開する場合は、VMware vSphere Client を使って VMware vCenter Server に接続し、vCenter Server インスタンス経由で仮想アプライアンスを展開します。vRealize Operations Manager 仮想アプライアンスの展開は、次のホストで行う必要があります。

- ESX/ESXi 6.0 以降（ただし、ESX/ESXi 6.5 Update 1 以降のパッチの適用が必要な ESX/ESXi 6.5 は例外）。管理は VMware vCenter Server 6.0 以降で行う必要があります。
 - ビルド番号が 5969303 より前の ESX/ESXi 6.5 は、それ以降のパッチに更新する必要があります。
- vRealize Operations Manager 仮想アプライアンスを ESXi 5.5 ホストに展開している場合、まず vCenter Server をバージョン 6.0 または 6.5 にアップグレードしてから、vRealize Operations Manager 8.0.1 にアップグレードする必要があります。

ライセンス キーの適用

重要：vRealize Operations Manager 7.0 以降のバージョンのアップグレードには、新しいライセンスキーが必要です。vRealize Operations for Horizon、vSOM Enterprise Plus とそのアドオンを除くすべてのライセンスキーが無効化されます。MyVMware ポータルから取得できる有効な新規のライセンスキーがインストールされるまで、この製品は評価モードで動作します。vRealize Operations Manager のユーザー インターフェイスにログイン後に評価版ライセンスを使用中であることを示すメッセージが表示される場合、60 日間の評価期間が終了する前に、新しいライセンスを申請することをご検討ください。

vRealize Operations エディションの資格の詳細については、次のリンクにあるエディション比較表を参照してください：<https://www.vmware.com/products/vrealize-operations.html>。

SDDC コンプライアンス

vSphere、VMware Cloud on AWS、および vSAN 6.7、6.5、6.0 オブジェクト、NSX-T 2.3、2.4、2.5、NSX-V 6.3.x および 6.4.x オブジェクトのコンプライアンスを確保するため、vRealize Operations Manager 8.0.1 には [VMware vSphere セキュリティ構成ガイド バージョン 6.7 Update 1、6.5、6.0](#) 用のコンプライアンス アラートが含まれています。セキュリティ構成ガイドのこのアラートは、対応するオブジェクト タイプに基づいています。現在のリリースでは最新の vSphere セキュリティ構成ガイド 6.7 Update 1 がサポートされていますが、アラートおよびシンプトムの中には、旧バージョンの vSphere との下位互換でしか利用できないものがあります。

ソリューションのサポート

VMware ソリューション（vSphere、Endpoint Operations Management、vRealize Log Insight）、およびその他多数のソリューションについては、[Solution Exchange](#) マーケットプレイスを参照してください。これらのソリューションは、仮想アプライアンスの単一または複数のノードで動作します。

TLS サポート

vRealize Operations Manager インスタンスを 8.0.1 にアップグレードすると、すべての vRealize Operations Manager ノードで TLS 1.0 と TLS 1.1 の両方が無効になります。TLS 1.2 が、デフォルトでサポートされる唯一のプロトコルです。ただし、セキュリティ バーを下げ、TLS 1.0 および 1.1 を有効にすることも可能です。詳細については、KB [74951](#) を参照してください。TLS 1.0 および TLS 1.1 の設定は、アップグレード時に保持されます。

VMware 製品の互換性

注：VMware 製品の相互運用性マトリックスで、vRealize Operations Manager と VMware 製品との互換性について説明しています。

ブラウザのサポート

この vRealize Operations Manager リリースでは、現在のすべての Web ブラウザがサポートされています、ただし、このリリースでテストされているのは次のブラウザのみです。

- Google Chrome：バージョン 76 および 77
- Mozilla Firefox：バージョン 68 および 69
- Microsoft Internet Explorer：バージョン 11（制限付きサポート）
- Microsoft Edge 17 および 18
- Safari 12 および 13

vRealize Operations Manager のインストールとアップグレード

注：vRealize Operations Manager 8.0.1 にアップグレードするためのアップグレード .pak ファイルは 2 種類あります。

- vRealize Operations Manager 6.6.1、6.7、7.0、または 7.5 から vRealize Operations Manager 8.0.1 にアップグレードするには、vRealize Operations Manager 6.6.1、6.7、7.0、および 7.5 仮想アプライアンス アップグレード .pak ファイルをダウンロードして適用する必要があります。
- vRealize Operations Manager 8.0 から 8.0.1 にアップグレードするには、vRealize Operations Manager 8.0 仮想アプライアンス アップグレード .pak ファイルをダウンロードして適用する必要があります。

注：vRealize Operations Manager 8.0.1 へのアップグレード時に期待される、Photon OS のルートパーティションのサイズは、20 GB です。この要件の詳細については、KB [75298](#) を参照してください。

アップグレード前に Pre-Upgrade Assessment Tool を実行することを常にお勧めします。このツールは、さまざまなバージョンの製品でのメトリック削減に伴う影響分析と、システムのアップグレード機能の検証チェック結果を提供します。生成される Pre-Upgrade Assessment レポートは、推奨されるメトリック置き換え、および推奨事項（システムが有効性チェックにパスしない場合）を示します。Pre-Upgrade Assessment Tool の使用方法の詳細については、KB [74952](#) を参照してください。

vRealize Operations のアップグレードに関する情報を提供する [vRealize Operations アップグレード センター](#)を参照してください。vRealize Operations Manager のサポートされるバージョンの詳細については、[VMware ライフサイクル製品マトリックス](#)を参照してください。

アップグレード後は、Endpoint Operations エージェントの更新が必要です。詳細については、KB [2137709](#) と KB [2138748](#) を参照してください。

[vRealize Operations Manager インフォメーション センター](#)には、インストールおよびソフトウェア アップデートに関する詳細情報があります。

vRealize Operations Manager をインストールまたはアップデートする前に、vRealize Operations Manager 仮想プラットフォームのガイダンス『[vRealize Operations Manager vApp デプロイおよび構成ガイド](#)』を参照してください。

vRealize Operations Manager 8.0.1 にアップグレードすると、アップグレード中に[デフォルトの内容の再設定]チェックボックスをオフにしても、特別な設定が不要なコンテンツがソフトウェア アップグレード処理の一環としてリセットされます。これにより、アラート定義、シンプトム定義、推奨事項、ポリシー、ビュー、ダッシュボード、ウィジェット、レポートなどのデフォルトの内容に対してユーザーが行った変更が上書きされます。そのため、vRealize Operations Manager 8.0.1 にアップグレードする前に、コンテンツをクローン作成するかバックアップを取る必要があります。

1 つの環境に vSphere with Operations Management（任意のエディション）および vRealize Operations Standard を同時にデプロイする。

1 つの環境に vCloud Suite/vRealize Suite Standard/Advanced/Enterprise と、vRealize Operations Advanced/Enterprise エディションを同時にデプロイする。

注：vRealize Operations Manager は vRealize Suite Lifecycle Manager を使用してインストールすることもできます。詳細については、「[Creating an Environment](#)」を参照してください。インストール、構成、アップグレード、パッチ、構成管理、ドリフト修正、および健全性を単一の管理画面で自動化するために、vRealize Suite Lifecycle Manager を使用できます。新規ユーザーの方は、ここをクリックして [vRealize Suite Lifecycle Manager](#) をインストールしてください。クラウド管理リソースの IT 管理者はこれを使用することで、価値の提供 (TTV)、信頼性、一貫性を向上させながら、ビジネス クリティカルなイニシアチブに集中することができます。

vRealize Operations Manager のインストールまたはソフトウェアのアップデートに関する問題については、「インストールとアップデートの問題」セクションを参照してください。

解決した問題

- rsyslog サービスが vRealize Operations Manager のパラメータ付きで実行されない。
- サービス検出が構成された後、[実行スクリプト] および [上位のプロセスを取得] アクションが [インベントリ] > [オブジェクト] ページから機能しない。
- [Set Memory of VM] アクションが機能せず、仮想マシンでメモリ ホット プラグがサポートされていない。
- 複雑な関係更新が原因となって、vRealize Operations Manager ノードの CPU 使用率が 100% になる。
- スレッド数が制限を超えるとコレクタが停止する。
- 複数のスナップショットが作成された場合でも、仮想マシンに 1 つのスナップショットしか表示されない。
- セッション プロセス ウィジェットでダッシュボードを公開しようとする、エラーが発生する。
- vRealize Operations Manager 7.5 から 8.0 にアップグレードすると、構成と vCenter Server のユーザーが失われる。
- vCenter Server ユーザーが vRealize Operations Manager 7.5 にログインできない。
- Apache サービスのログ作成が Photon オペレーティング システムで適切に構成されない。いくつかのサービスのログ ローテーション構成がない。

既知の問題

既知の問題は、以下のとおり分類されています。

- インストールとアップグレードの問題
- 全般的な問題
- ユーザー インターフェイスの問題

インストールとアップグレードの問題

- バッチ インストールでカスタム証明書が無視される

マルチノード クラスタのデプロイ中は、カスタム証明書が提供されていても、それを展開ウィザードは無視して、デフォルトの証明書を使用します。

回避策：なし

- オフラインの RC ノードをオンラインにしようとする、[ノードをオフラインにする] ウィザードが表示される

RC ノードをオフラインにした直後にオンラインに戻そうとすると、[ノードのオフラインまたはオンラインへの切り替え] ボタンをクリックしたときに、期待される [Take Node(s) Online] ウィザードではなく、[ノードをオフラインにする] ウィザードが表示されます。

回避策：ノードをオフラインにした後、ノード状態がまだ [実行中] と表示されているか、ステータスがまだ [オンライン] である場合は、しばらく待ってから、上部のメニューでビューのデータを手動で更新し、最新のノード状態を取得してください。[実行されていません] という正しい状態が表示されると、[ノードのオフラインまたはオンラインへの切り替え] ボタンが正常に動作するようになります。

- フォルト ドメインのすべてのノードの置き換え中にノードの置き換えに失敗する
置き換えられるノードがパワーオフ状態でない場合、クラスタが使用不能状態になることがあります。

回避策：CA 有効クラスタのノードを置き換えるときは、ノードがパワーオフ状態であることを確認してください。

- ノードが [新規] ではなく [構成済み] とマークされる

間違った管理者パスワードが指定されていることが [Multiple Nodes Addition] ウィザードで検出されると、ノードの追加がキャンセルされますが、新規ノードが [構成済み] とマークされます。

回避策：ノードを再デプロイし、正しい管理者パスワードを使用して再起動してください。

- クラスタの状態が [失敗] に設定されていてもクラスタが機能している

Witness (監視) ノードから [オンラインにする] ボタンを使用すると、クラスタの状態が誤って [失敗] に設定されます。

回避策：Witness (監視) ノードを使用してクラスタをオンラインにしないでください。

- 新しく追加したノードで Management Pack のインストールに失敗する

vRealize Operations Manager 8.0.1 にアップグレードした後、新しく追加したノードで Management Pack のインストールに失敗します。

回避策：Management Pack を最新バージョンにアップグレードしてから、新しいノードを追加してください。

- Wavefront 構成のインスタンスの場合、vRealize Operations Manager 8.0.1 へのアップグレードが失敗する

vRealize Operations Manager 7.5 以前のバージョンを Wavefront 構成で使用している場合、アップグレードに失敗するため、vRealize Operations Manager 8.0.1 にアップグレードできません。

回避策：なし

- ピュア IPv6 環境で、`/etc/resolv.conf` ファイルに DNS サーバがない

新しいノードがピュア IPv6 環境にデプロイされるとき、`/etc/resolv.conf` ファイルに DNS サーバがありません。その結果、ノードが FQDN を IP アドレスに解決できません。

回避策：ネットワーク管理者のサポートを受けながら、`/etc/resolv.conf` ファイルで DNS サーバを手動で設定してください。

- 仮想マシンでいずれかのノードが US/Pacific-New タイムゾーンで実行されている場合、アップグレードが失敗することがある

PostgreSQL データベース システムは、US/Pacific-New タイムゾーンをサポートしなくなりました。このタイムゾーンは、America/Los_Angeles タイムゾーンのエイリアスにすぎません。このため、仮想マシン上でいずれかの vRealize Operations Manager ノードが US/Pacific-New タイムゾーンで実行されている場合、アップグレードが失敗することがあります。

回避策：仮想マシンのタイムゾーンを US/Pacific-New から America/Los_Angeles に変更してから、アップグレードしてください。

全般的な問題

- アプリケーションの監視中に、プラグインの構成を削除するまで同じフィールドを持つプラグインを有効化できない

vRealize Operations Manager のユーザー インターフェイスに、次の内容のエラー メッセージが表示されます。「リソースの更新に失敗しました: 同じキーを持つリソースがすでに存在します」

回避策：既存のプラグイン構成を手動で削除してから、プラグインの有効化を続行してください。問題が解決しない場合は、対応するリソースをインベントリから削除してください。

- オブジェクトの可視性が制限されているユーザーのコンプライアンス スコアが、オブジェクトに対する完全な可視性を持つユーザーのものと同じになる

現在のユーザーには表示されない（割り当てられていない）オブジェクトのコンプライアンス スコアが計算されます。

回避策：次の手順を実行します。

1. 当該ユーザーに表示される（割り当てられている）オブジェクトを含むカスタム グループを作成します。
2. このグループに対して、必要なコンプライアンス アラート定義セットが有効になっているポリシーを適用します。
そのセットが有効になっているのが 1 つのアクティブ ポリシー（カスタム グループに適用されているポリシー）のみである場合、それらのアラート定義に基づくコンプライアンス ベンチマークには正しいスコアが表示されます。

- vCenter Server PNID が変更されると、アプリケーション プラグインの履歴データが表示されない
アプリケーション プラグインの履歴データまたは vCenter Server PNID が変更される前のデータが失われます。

回避策：なし

- SharePoint サービスがサービス検出で検出されない

IIS および SharePoint サービスには共通のポートがあるため、IIS が SharePoint からポートを取得すると、SharePoint サービスがサービス検出で検出されません。

回避策：なし

- vRealize Application Remote Collector および vRealize Operations Manager を 7.5 から 8.0.1 にアップグレードした後に、いくつかのプラグインのステータスが [不明] になる

vRealize Application Remote Collector および vRealize Operations Manager を 7.5 から 8.0.1 にアップグレードすると、灰色のアイコンとともに [不明] アイコンが表示されます。

回避策：プラグインを再アクティブ化してください。

- vRealize Operations Manager 7.5 から 8.0.1 にアップグレードすると、ライセンス コスト ドライバ

が変化する

vRealize Operations Manager 7.5 から 8.0.1 にアップグレードすると、[サマリ] ページと [License Cost Driver] ページの間でライセンス コスト ドライバが変化します。

回避策：[License Cost Driver (ライセンス コスト ドライバ)] ページで、古い値である 365 ドルを使用してコストを設定できます。

- vRealize Automation 8.x がデータ収集を停止する

1. vRealize Automation 8.x サービスが停止している場合、データは収集されません。
2. vRealize Automation 8.x サービスが実行されているときに、データが断続的に収集されません。

回避策：

1. vRealize Automation 8.x サービスを開始し、すべての vRealize Automation 8.x サービスが実行されていることを確認します。約 20 分間待機します。
2. vRealize Automation 8.x アダプタ インスタンスを再起動します。

- Internet Explorer ブラウザを使用してアプリケーション監視エージェントをインストールしているときに、json ファイルをローカルで保存するか開くようにユーザーに求めるメッセージが表示される

Internet Explorer を使用してアプリケーション監視エージェントをインストールし、認証情報の csv ファイルをアップロードすると、json ファイルをローカルで保存するか開くように求めるメッセージがブラウザに表示されます。 次の画面に進むことができなくなります。

回避策：別のブラウザを使用してください。

- 仮想マシンに直接費が割り当てられていても、追加コストがゼロと表示される

vRealize Automation 8.x で構成された vCenter Server が vRealize Operations Manager ですでに監視されていて、コストが計算された場合、コストがゼロと表示されます。

回避策：月初から今日までの期間が両方で新たに開始されると、コストが翌月からの価格に一致するようになります。

- ネットワーク接続がタイムアウトすると、Management Pack for Microsoft Azure の収集が失敗する
Management Pack for Microsoft Azure が Azure ポータルに要求を送信し、ポータルが要求を読み取るのにかかる時間が Azure SDK のタイムアウト値を超えると、アダプタ インスタンスの収集が失敗します。ネットワークのタイムアウトの問題が解決されるか、Azure ポータルが要求を読み取れると、収集が再開されます。

回避策：なし

- Active Directory 認証ソースによるユーザー名の処理方法の変更

短縮名を使用した vRealize Operations Manager へのログインは、ユーザー名のドメイン サフィックスが [ベース DN] オプションで指定されたドメイン名と一致する場合にのみ成功します。そうでない場合は、ログイン時にドメイン サフィックスを含む完全なユーザー名を指定する必要があります。詳細については、[KB 68131](#) を参照してください。

回避策：短縮名を使用して認証を行うには、Active Directory 認証ソースで、共通名に *samAccountName* を使用するように設定します。共通名を *samAccountName* に設定したら、Active Directory ユーザーおよびグループを再インポートする必要があります。

- Management Pack for SDDC Health、Management Pack for OpenStack、および Management Pack for SRM に関連するイメージやアイコンなどのオブジェクトが表示されない

vRealize Operations Manager をアップグレードした後で、vRealize Operations Manager クラスタを Management Pack for OpenStack 5.0、Management Pack for SRM 8.1、または Management Pack for SDDC Health 5.0 をインストールして、別の vRealize Operations ノードを追加すると、イメージやアイコンなど管理パックに関連する一部のオブジェクトが欠落します。

回避策： Management Pack for OpenStack、Management Pack for SRM、または Management Pack for SDDC Health のインスタンスを持つユーザーは、vRealize Operations Manager をアップグレードする前に、管理パックをアンインストールする必要があります。

- vRealize Operations Manager 8.0.1 で、VMware Cloud vCenter Server エンドポイントのコスト計算がサポートされていない

vRealize Operations Manager 8.0.1 では、VMware Cloud vCenter Server エンドポイントを追加して、クラウドタイプを VMware Cloud on AWS として指定した場合、VMware Cloud vCenter Server エンドポイントのコストは計算されませんが、これは、コスト モデルがオンプレミス vCenter Server と異なるためです。

回避策： VMware Cloud on AWS に由来するインフラストラクチャのコストの管理については、VMware Cloud on AWS 用の vRealize Operations Manager 管理パックを使用して行うことが可能です。

- 分布タイプのビューで変換タイプが [現在] の場合にしか操作に反応しない
分布タイプのビューを作成したとき、[現在] 以外の変換タイプを選択するとリスト ビューが表示されません。

回避策： リスト ビューを表示するには、選択したメトリック変換を [現在] に変更します。同じメトリックを、関連する変換（最大値など）を備えた追加列として追加すると、変換の結果をリスト ビューに表示できます。

- vSAN 健全性チェック テストを vSAN 健全性サービスから削除しても、vSAN アダプタからそのテストに対応するアラートがキャンセルされない
vRealize Operations Manager は、削除されたアラートを検出およびキャンセルできません。

回避策： vRealize Operations Manager のユーザー インターフェイスからアラートを手動でキャンセルします。

- Internet Explorer 11 を使用して [Log Insight] タブのページやダッシュボードにアクセスするとデータがブロックされる
Internet Explorer 11 を使用して [Log Insight] タブのページやダッシュボードにアクセスすると、データがブロックされてページが空の状態になります。

回避策： Firefox または Chrome ブラウザを使用してください。

- 空のレポートが生成されることがある
vCenter Server の認証情報で vRealize Operations Manager にログインしてレポートを生成すると、レポートは常に空の状態で生成されます。

回避策： なし

ユーザー インターフェイスの問題

- Windows 7 で Internet Explorer を使用している場合、ダッシュボード リンクを開くことができない共有 URL であるダッシュボードを開こうとしても、そのページは開きません。

回避策： Windows 7 で Internet Explorer を使用しないでください。他のブラウザを使用してリンクを開きます。

- 日付ピッカーの [過去 1 年間] オプションが直観的な認識と異なる
日付ピッカーの [過去 1 年間] オプションは、前月の末日から過去に 1 年間さかのぼった時間範囲を意味します。現在の日付から 1 年間さかのぼった範囲や、前年 1 年間の意味ではありません。

回避策： なし

- [メトリックとプロパティの収集] というポリシー ワークスペースのステップでフィルタ メニューが正しく機能しない

状態、KPI、DT のドロップダウン メニューでオプションを選択解除すると、設定に関係なくすべての属性がフィルタで非表示になります。

回避策： 保存して、再びポリシーを開きます。

- PDF レポート ファイルに、スクロールバーが付いているウィジェットの一部のデータが含まれないことがある

スクロールバーが付いているウィジェットがあるカスタム ダッシュボードを含んでいるレポートを生成する場合、ダウンロードされた PDF ファイルにウィジェットの一部のデータが含まれていないことがあります。

回避策： ダッシュボード内のすべてのウィジェットの高さを、すべてのデータが収まるように拡大します。